

## 「ある家族の新年会での年金談義」(1)

団塊の世代に属する年金コンサルタントが、家族を連れて、妻の実家に新年の挨拶に行ったところ、元大学教授の義父（お爺さん）と年金論議がはじまってしまった。（連載第1回）

### 公的年金改革と不況

（コンサルタント一家）お爺さん、お婆さん、あけましておめでとうございます。

（お爺さん）何を言っておる、ちっともめでたくなんかないぞ。おまえも年金コンサルタントの端くれなら、最近の公的年金改革論議をちゃんと見ているのかね。

（コンサルタント）わっ、新年早々、ご機嫌斜めですね。10月に出た年金審議会の意見書を受けて、厚生省が「3つの選択肢」を提案したけれど、政治がらみや、景気対策との関係で、かなり混迷を深めていますよね。

（お爺さん）厚生省案は、要するに、現行制度の枠組みを維持しながら、どうやって年金総額を抑制するかという、給付水準と支給開始年齢の組み合わせを示しただけなんだ。負担についても、世界的に「年収の2割（月収の26%）が上限」という考え方が支配的なので、あまり重くならないよう配慮したのだが、政治家たちは見向きもしなかった。

（コンサルタント）むしろ政治家たちは、すでに決まっている保険料引き上げスケジュールの凍結を打ち出していますね。われわれ保険料を払う方からすれば、当面ほっとしますが、結局、少し後になってドンと上がるんじゃないかと、不安は残ります。

（お爺さん）あんな風に不安をばら撒くから、皆がますます貯蓄に走り、不況が加速するんだ。

（コンサルタント）将来に対する不安がものすごく大きい中で、デフレスパイラルに歯止めをかけるには、公共投資や商品券を配るだけでは解決できないでしょうね。お年寄りよりも、われわれのような働き盛りの所得が増えるような政策を実施する必要があるでしょう。年金の保険料なんかも、むしろ思いきって引き下げるくらいのことを考えてくれないと。

（お爺さん）「将来も、今程度の年金をちゃんと支払う」と政府が宣言すれば、皆が安心して消費するようになるじゃろう。やはり、若い世代には保険料をきちんと払ってもらわないと。

（コンサルタント）その保険料を払えなくなりそうだというのが、問題の出発点じゃないですか。手品のように、「不安」と「負担」とを一挙に解消する方法なんか、ありそうもないから、せめて将来への道筋くらいは、きちんと示してほしいなあ。

### 公的年金の支給開始年齢

（大学生の孫）お爺ちゃんなんか、大した保険料も払っていないのに、たくさん年金がもらえていいじゃない。僕たちなんて、本当に年金がもらえるか分かったものじゃないよ。

（コンサルタント）お爺さんの世代は、保険料払込額（本人負担分のみ）400万円に対して、年金受給総額は6100万円との試算がある<sup>(注)</sup>。公的年金制度がいくら助け合いと言っても、これじゃ勤労世代はやっていられない。社会保険庁が出した「年金は大魔人」との広告も、僕らには悪魔のように聞こえますねー。

（注）平成6年時点で70歳のケース（『平成9年度版年金白書』）。

(大学生の孫) 僕なんか来年就職して給料をもらっても、年金や税金なんかを払った後で、お爺ちゃんの年金より手取りが少ないっていうのも、何か納得できないな。

(お爺さん) まてまて、昔は社会全体が貧しい中で、年金のない親の面倒もみた。給料が安い時に払い込んだ保険料(名目額)が少ないのは、当たり前じゃないか。その後の経済成長分を補正するのが、賃金スライド制だ。ところが愚かな事に、今度は、年金額が決まったら、その後の賃金スライドをしばらく止めようとしている。

(コンサルタント) 物価スライド制は維持するのだから、いいじゃないですか。

(お爺さん) 物価上昇と経済成長は違う。社会全体が経済成長して現役世代の給料が上がり、暮らしが豊かになったら、それを年金額に反映させるのは当然だ。大正生まれの人間は一生、大正時代の暮らし(冬は炭火のこたつで、夏は団扇と風鈴)をしていると言うのか。

(大学生の孫) 昔は高齢者が少なかったからいいけれど、これからどんどん高齢化が進んだらとても僕らだけでは養いきれないよ。今は男の平均寿命が77才だよ。昔に比べて、高齢者もずっと元気なんだから、もっと長く働いて生活できるようになるんじゃないかな。

(お爺さん) 確かに、働いて生活できる人にまで年金を支払う必要はない。だから今でも在職老齢年金(就労所得があれば、60~64歳までは年金額が削減される)がある。今度は、それを69歳まで延ばす方向が打ち出されている。しかし、働けば年金額が減らされるというのは、働く意欲がわかなくなるジレンマがある。

(大学生の孫) じゃあ、いっそのこと、年金が支払われないことになったら、皆がもっと働くようになるんじゃないの。僕なんか、サラリーマンよりも学生の方が優雅だから、いつまでも就職しないで、お父さんのスネをかじりながら家でブラブラしていようかな。

(コンサルタント) こら、何を甘えたことを。こっちなんか、いくら働いても「逃げ水年金」に追いつかない。既に基礎年金は、支給開始年齢の65歳への順次引き上げが決まっているけれど、今度は報酬比例部分についても、65歳への引き上げがしきりに主張されているんだ。

(お爺さん) まあ働けるだけ結構じゃないか。こんなに失業率も高いのだから、給料をもらえるだけでも感謝しなければなあ。

(コンサルタント) まあ、そりゃそうですけど……。

(お爺さん) わしらの頃の定年は、55歳が中心だった。最近やっと60歳になってきたところなのに、さらに65歳に延ばすほど、働く場所があるのかのー。おまえも、年金コンサルタントの商売の方は大丈夫なのか。今どき、新たに年金制度をつくる企業もなかりうに。

(コンサルタント) ですから、年金制度のリストラのコンサルタントを……

(お爺さん) まさか失業したりはせんじゃろな。

(コンサルタント) ……

※いっぺんに、めでたさが吹っ飛んでしまったが、新年会の様子は次回に続く。

[厚生省の年金改革案のポイントについては、裏表紙の表を参照]

●厚生省の年金改革案のポイント（98年10月）

項目	可否	備考
基礎年金の税財源化	×	慎重な検討が必要
国庫負担率の1/2への引き上げ	△	引き続き検討
積立金の取崩し	×	利子収入の重要性
保険料凍結	×	年収の2割まで段階的に引き上げ (経済状況に配慮して緩やかに)
厚生年金の民営化	×	二重の負担が発生
支給開始年齢(報酬比例部分)引き上げ	○	段階的に65歳へ
給付水準(報酬比例部分)抑制	○	5%程度抑制
賃金スライド(裁定後の賃金再評価)	×	当分の間、裁定後の年金額の政策 改定や賃金再評価は行わず、物価 スライドのみを行う。
物価スライド制	○	
60歳台後半の在職老齢年金	○	65歳以降も賃金と年金額とを調整

\*厚生省の提示した3つの案のうち、基本案(第1案)により作成した。

発行： ニッセイ基礎研究所

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1 日本生命日比谷ビル内

TEL： (03) 3597-8644 FAX： (03) 5512-7160

本誌記載のデータは各種の情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。本誌内容について、将来見解を変更することもあります。本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、契約の締結や解約を勧誘するものではありません。なお、ニッセイ基礎研究所の書面による同意なしに本誌を複写、引用、配布することを禁じます。